

第 11 回地球環境シンポジウム

【行事コード：E307 / 略称：11 回地球環境シンポ】



土木学会地球環境委員会では恒例の地球環境シンポジウムを7月22日(火)・23日(水)に埼玉県産業文化センター(大宮ソニックシティ)で開催いたします。一般セッション(論文発表) パネル展示に多数の応募を頂いており、地球環境問題に関する幅広い分野からの発表が予定されています。パネル展示に対しては、昨年同様、地球環境問題の解決に貢献する土木・環境技術と活動に関する展示に対して、それぞれ『地球環境技術賞』と『地球環境貢献賞』が授与されます。また、論文発表に対しては、独創性と将来性に富むと認められたものに『地球環境講演論文賞』が授与されます。

なお本年は、土木における環境問題への取り組みに対してますます社会の関心が高まっていることに鑑み、「これからの土木と環境問題 - 市民や地域の参加を踏まえて」と題した特別セッションを22日の午後に行います。このセッションでは、環境問題に造詣の深い丹保憲仁放送大学学長(前土木学会長)をお招きして、ご講演頂く予定です。また、土木学会環境賞の4年間の振り返りながら、「関東地方における道路事業と河川事業における近年の環境対策の実例」と「市民や地域の参加」について、恵江戸川大学教授(荒川流域ネットワーク代表・日本シヨナルトラスト協会理事)を座長として、国や埼玉県の担当官と市民活動の代表者をパネリストとするパネルディスカッションを行います。ふるってご参加いただきますようご案内いたします。

記

1. 主催 :〔社〕土木学会(担当：地球環境委員会)
後援 : 国土交通省関東地方整備局、埼玉県
2. 日時 : 2003年7月22日(火)・23日(水)
(『地球環境技術賞・貢献賞』の授与式は、閉会式に行います)
3. 場所 : 埼玉県産業文化センター(大宮ソニックシティ)
〒331-8669 さいたま市桜木町1-7-5
受付はホール棟4F 国際会議室前です。
<交通アクセス> JR各線・東武野田線 大宮駅下車 西口徒歩3分
会場へのアクセスおよび会場内の見取り図は以下のホームページをご覧ください。
<http://www.sonic-city.or.jp/>
4. 参加費 : 一般7,000円、学生4,000円(講演論文集代を含む、事前申し込み制)
特別セッションのみの参加の場合無料です。(事前申込不要、当日会場にお越しください。)
5. 定員 : 200名
6. 申込方法 : 学会誌 綴じ込みもしくは土木学会ホームページ内
(<http://www.jsce.or.jp/event/active/form.pdf>)の「本部行事参加申込書」に参加者お一人につき1枚にて必要事項をご記入の上(特に行事コード番号)下記「参加申込先」までお申込下さい。
申込書到着後、10日前後にて折り返し「参加券」等をお送り致します。
申込にお願い：
申込締切日前に定員に達している場合がございますので予めご了承ください。なお、締切日以降の事前受付はいたしません。但し、定員に余裕がある場合のみ、行事当日に会場にて受付致します。
申込み後、やむを得ずキャンセルをされる場合は、必ず開催日の1週間前までに下記「問合せ先」にご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費を徴収させていただきますので予めご了承ください。
参加費のお支払いが、金融機関経由の場合は請求書到着後1ヶ月以内にお支払下さい。
なお、申込をされる前にご送金頂くことはトラブルの原因となりますので固くお断り

致します。

テキストのみご希望の場合は、行事終了後に下記「問合先」までお問い合わせ下さい

7. 申込締切日：平成 15 年 7 月 11 日（金）【必着】

8. 参加申込先：FAX 03-3355-5278【受付専用】

住所 〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目無番地

土木学会事務局 研究事業課 行事受付あて

9. 問合先（行事担当）：土木学会事務局 研究事業課 担当：丸畑明子

TEL：03-3355-3559【課直通】

10. 特別セッション：

「環境問題への土木の取り組みと将来への展望」

日時：7月22日（火）14:00～17:15

場所：大宮ソニックシティホール・国際会議室

参加費：特別セッションのみ参加の場合は無料

定員：180名（事前登録の必要なし）

会場の収容能力に限りがございますので、定員になり次第入場制限をいたします。

11. タイムスケジュール：

1日目（7月22日）

時間	第1会場【国際会議室】	第2会場 【市民ホール401】	第3会場 【市民ホール404】
9:00～9:30	受付（国際会議室前）		
9:30～9:40	開会挨拶		
9:40～10:40	小委員会報告		
10:40～11:00	休憩		
11:00～11:50	ポスター発表、パネル展示 概要説明(1)	パネル展示概要説明(2)	
11:50～13:00	休憩		
13:00～13:30	パネル展示・ポスター発表（コアタイム） <パネル展示会場【地下一階第二展示場】>		
13:30～14:00	休憩		
14:00～17:15	特別セッション		

2日目（7月23日）

時間	第1会場【国際会議室】	第2会場 【4階市民ホール401】	第3会場 【4階市民ホール404】
10:00～11:00	物質循環・リサイクル	大気環境(1)	環境行動・環境教育(1)
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:10	自立循環型都市	大気環境(2)	環境行動・環境教育(2)
12:10～13:30	休憩		
13:30～14:30	循環共生の 流域圏・沿岸域(1)	環境低負荷型の 建設システム	CDM・経済政策
14:30～14:40	休憩		
14:40～16:00	循環共生の 流域圏・沿岸域(2)	環境低負荷型の 交通システム	地球温暖化
16:05～16:30	閉会挨拶・表彰式		

12. プログラム:

===== 1日目 (7月22日) =====

9:00 - 9:30 受付【国際会議室前】

【第1会場(国際会議室)】

9:30 - 9:40 開会挨拶(委員長)

9:40 - 10:40 小委員会報告(座長:東洋大学 藤田壮)

(1) 自立・循環型都市の構築に向けての到達点とこれからの課題に関する考察 - 研究小委員会(ワークショップ)における研究成果をふまえて -

自立・循環型都市の構築と暮らしの環境情報に関する研究小委員会 松下潤

(2) 気候変動に関わる共同実施・CDM研究小委員会の活動報告

気候変動に関わる共同実施・CDM研究小委員会 山田和人

11:00 ~ 11:50 ポスター発表・パネル展示概要紹介(1)

ポスター番号(39)~(41)、パネル番号(1)~(8)の紹介を行います。

14:00 ~ 17:15 特別セッション

「環境問題への土木の取り組みと将来への展望」

1. 挨拶(14:00~14:05)

青山 俊介 (土木学会地球環境委員会委員長)

2. 基調講演(14:05~15:00)

仮題「環境問題と土木のあり方」

丹保 憲仁 (放送大学学長、元土木学会会長)

3. 事例報告(15:00~15:15)

「土木学会 環境賞のこれまで」

シンポジウム事務局

4. パネル・ディスカッション(15:30~17:10)

「公共事業と環境への取り組み - 現状と課題」

コーディネータ/ 恵 小百合 (江戸川大学社会学部教授)

パネリスト(50音順)/

大西 亘 (国土交通省関東地方整備局河川調査官)

久保田 一郎 (国土交通省北首都国道事務所所長)

白石 真澄 (東洋大学経済学部助教授)

前田 猛彦 (埼玉県県土整備部副部長)

5. 閉会挨拶(17:10~17:15)

松下 潤 (地球環境シンポジウム実行委員長)

【第2会場(401号室)】

11:00 ~ 11:50 パネル展示概要紹介(2)

パネル番号(9)~(18)の紹介を行います。

===== 2日目 (7月23日) =====

【第1会場(国際会議室)】

10:00 ~ 11:00 物質循環・リサイクル(座長:関西学院大学 松村寛一郎)

(1) Analysis on Wastepaper Recycling System of Developing Countries Arising From Model Reference Adaptive Theory

北海道大学 山村悦夫

(2) 建設資材であるブロックへの農業用廃ビニールの有効利用について

和歌山高専 久保井利達・久保井徳洋、関西大学 西田一彦

- (3) 冷鉄源の有効利用による鉄鉱の循環システムの評価 - 銅の蓄積と転炉の有効利用に関するモデル分析

大阪大学 向井肇・恒見清孝・盛岡通

11:10~12:10 自立・循環型都市(座長:芝浦工業大学 松下潤)

- (4) 持続可能なコンパクトシティ実現のための都市総合評価手法の検討
国立環境研究所 脇岡靖明・原沢英夫、(株) 創建 川合史朗・三岡裕介・中尾理恵子
- (5) Decision Support Criteria and Guide System of Environmentally Sound Technologies for Sustainable Regional Management (持続可能な地域管理のための環境技術の評価と政策決定プロセスへ適用するガイドシステムの提案)

東洋大学 藤田壮、大阪大学 盛岡通

- (6) アジア巨大都市における民生部門エネルギー需要の将来予測

北九州市立大学 松本亨・左健・韋新東、(株)国内貨物 石崎美代子

13:30~14:30 循環・共生の流域圏・沿岸域(1)(座長:東洋大学 藤田壮)

- (7) 沿岸植生の海岸侵食制御機能と底質捕捉効果について
鹿児島大学 浅野敏之、コースタルテクノ 松元涼子、伸紀(株) 菊池誠治
- (8) 沖縄県における赤土汚染問題に関する研究
防衛大学校 山口晴幸・齊藤和伸・岩田道春、(財)防衛周辺整備協会 増永和弘
- (9) 各国の生活用水使用量の要因解析と将来予測

東京大学 荒巻俊也・鈴木学・花木啓祐

14:40~16:00 循環・共生の流域圏・沿岸域(2)(座長:東京大学 荒巻俊也)

- (10) 地球温暖化による水資源影響の日本全域規模を想定した評価方法に関する研究
パシフィックコンサルタンツ(株) 野上浩典・町田聡・熊野良子、
国立環境研究所 原沢英夫
- (11) 20年継続観測による雨水浸透工法の流出抑制効果の検証
都市基盤整備公団 林隆太郎・嶋田義和・森上祥行
- (12) Scenario-Driven Policy Design and Evaluation System with GIS Based Regional Material Flow Analysis for Environmentally Sustainable Basin Management (自然共生型流域研究のためのGISによるマテリアルフロー分析システムを用いたシナリ誘導型の政策設計と評価システム)

東洋大学 藤田壮、大阪大学 盛岡通・丹治三則

- (13) GIS Based CO₂ Emission Analysis Caused by Suburbanized Activities - Case study on MUKO River Basin Region for Automobile Trips - (GISを用いた大都市圏における公害化がもたらす地球環境負荷の算定研究 - 兵庫県武庫川流域における自動車交通についてのケーススタディ -)

大阪大学 カレード エリシー、東洋大学 藤田壮、大阪大学 盛岡通・徳岡潤

16:05~16:30 授与式、閉会挨拶(幹事長)

【第2会場(401号室)】

10:00~11:00 大気環境(1)(座長:豊橋技術科学大学 倉田学児)

- (14) アラスカにおける有害大気汚染物質の測定と発生源寄与の推定
NTT アクセスサービスシステム研究所 下羽利明、
北海道大学 村尾直人・太田幸雄・山形定
- (15) メソ気象モデルMM5を用いた局地気象場のデータベース化とその精度検証
岐阜大学 深尾一仁・大澤輝夫・嶋田進・安田孝志
- (16) 異粒径の凝結核が共存する気塊中での競合的成長による雲粒平衡半径の評価
大阪大学 芝定孝・平田雄志、摂南大学 八木俊策

11:10~11:50 大気環境(2)(座長:国立環境研究所 一ノ瀬俊明)

- (17) 横須賀での酸性雨の長期モニタリング
防衛大学校 山口晴幸・ウイトゥン ジラワッタナパン・斎藤和伸、
三井建設(株) 黒島一郎
- (18) 東アジアの排出量データと航空機観測データからの流跡線解析の比較

豊橋技術科学大学 倉田学児・北田敏廣、京都大学 山本浩平、
アイオワ大学 GRカーマイケル・Yタン

13:30～14:30 環境低負荷型の建設システム(座長:電力中央研究所 仲敷憲和)

- (19) 鉄道建設事業における環境負荷の低減と環境アセスメント
土木学会コンサルタント委員会環境問題研究小委員会 柳沢満夫
- (20) 大規模造成工事に伴う環境配慮
サンデン(株) 堀越洋志、サンデンファシリティ(株) 石倉利雪、
鹿島建設(株) 高山登・岩崎安孝
- (21) 建設施工段階における二酸化炭素排出量原単位の一例(その2)
(株)大林組 梅津敏・濱口倫壽・竹花郷子

14:40～16:00 環境低負荷型の交通システム(座長:北九州市立大学 松本亨)

- (22) コンテナトレーラー走行時におけるCO₂排出量の分析
国土技術政策総合研究所 村野昭人・鈴木武
- (23) 交通振動に配慮した道路計画のための手法検討
大阪メディアポート(株) 徳永法夫、大阪市立大学 日野泰雄・西村昂
- (24) 戦略的環境アセスメントのための地域経済・環境統合型モデルの提案 - パキスタンの道路
計画を対象として -
名古屋大学 奥田隆明・プロヒ カーン モハマド
- (25) 沿道大気環境におけるフロースルー遮音壁の特性に関する研究 - 数値モデルでの検討 -
豊橋技術科学大学 東海林孝幸・北田敏廣

【第3会場(409号室)】

10:00～11:00 環境行動・環境教育(座長:大阪大学 恒見清孝)

- (26) 環境リスクの評価に係る意識の定量化
諏訪東京理科大学 奈良松範
- (27) 環境ISOの導入による環境教育実践活動の展開
栃木県立宇都宮工業高校 糸川高德・相原良孝・村上英二・高桑正克・岡田義治
- (28) 大学院レベルにおける環境冠学科の設置メカニズム - 高等教育論の視点から -
東京大学 内山弘美

11:10～12:10 環境行動・環境教育(座長:諏訪東京理科大学 奈良松範)

- (29) 廃PCB処理におけるリスク・マネジメントとリスク・コミュニケーションの分析
大阪大学 恒見清孝・盛岡通
- (30) 都市環境に配慮した道路整備の評価における住民意識分析の研究(さいたま市氷川参道を事例として)
さいたま市役所 土屋愛自
- (31) 東京湾・三番瀬への汚濁負荷と個人の生活についての情報提供および環境教育についての提案
都筑良明

13:30～14:30 CDM・経済政策(座長:パシフィックコンサルタンツ 山田和人)

- (32) Comparison of domestic emissions trading scheme of UK practice and Japanese proposal
大阪大学 Daisuke HAYASHI, Amane HAYASHI, Tohru MORIOKA and Tsuyoshi FUJITA
- (33) 運輸交通分野におけるCDMを用いたビジネスモデルの可能性に関する基礎的検討
名古屋大学 田中浩介・加藤博和・林良嗣
- (34) 国際規格(品質・環境・安全)の統合マネジメントモデルに関する研究
大阪大学 矢野昌彦・盛岡通

14:40～16:00 地球温暖化(座長:京都大学 米田稔)

- (35) インドネシアにおける海面上昇の都市への影響評価 - 現地調査によるミクロ分析と衛星画像によるマクロ分析 -
国土技術政策総合研究所 小林英之
- (36) 国土政策による温暖化防止効果の定量的評価の可能性 - 応用一般均衡モデルによる首都機能移転の評価を事例として -

- 国土技術政策総合研究所 小路泰広
(37) セダムを植栽した屋上緑化面における放射収支、地中温度及びヒートフラックスの観測
国立環境研究所 新津潔・一ノ瀬俊明
(38) 日本の環境配慮型交通施策導入プロセスにおける問題点の検討
名古屋大学 栗山和之、(株)トヨタマップマスター 崔東海、
名古屋大学 加藤博和・林良嗣

=====
ポスター発表題目一覧
=====

【パネル展示・ポスター発表会場（地下一階第二展示室）】

- (39) 異なるグローバル土地被覆マップデータの比較分析による土地被覆変化の把握に関する研究
金沢工業大学 大谷祐司・遠藤孝夫
- (40) 廃棄物海面処分場の護岸構造に関する検討
三菱重工業（株） 荒木健二・高木克実・大川賢紀・長澤大次郎
- (41) 流域における水循環改善の取り組みと環境改善へのアイデア提案
（社）雨水貯留浸透技術協会 屋井裕幸、自然工学設計事務所 廣瀬護

=====
パネル展示題目一覧
=====

【パネル展示・ポスター発表会場（地下一階第二展示室）】

- (1) 環境に優しい湖沼の底泥処理工法 - 水面下における大気圧工法 -
株式会社大林組
- (2) 公共工事におけるグリーン購入の取り組み
国土交通省国土技術政策総合研究所
- (3) 熱帯林(ラワン、マングローブ)の再生をめざして
関西電力株式会社 総合技術研究所 環境技術研究センター
- (4) 炭循環による河川浄化活動及びその啓発活動の展開
栃木県立宇都宮工業高校土木科
- (5) 雨水浸透工法 ~環境にやさしい雨水浸透システム~
都市基盤整備公団
- (6) 水辺環境の保全と創生
NPO 法人よこはま水辺環境研究会
- (7) 地球温暖化対策としての環境保全建築手法：地球温暖化研究棟の取り組み
独立行政法人国立環境研究所地球環境研究センター
- (8) 埼玉県的环境に配慮した土木事業
埼玉県
- (9) フレクイック止水工法
フレクイック工法研究会
- (10) 地域及び世界の水問題の解決を目指して
株式会社地圏環境テクノロジー
- (11) 国営ひたち海浜公園の屋上緑化施設「屋上エコガーデン」について
国土交通省関東地方整備局 建設部都市整備課
- (12) 河川行政の環境への取り組み
国土交通省関東地方整備局 河川部河川環境課
- (13) 「環境舗装東京プロジェクト」による保水性舗装と遮熱性舗装の試験施工について
国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所
- (14) 住民参加による「花いっぱい運動」
国土交通省関東地方整備局 北首都国道事務所
- (15) 市民が育てる圏央道の緑
国土交通省関東地方整備局 相武国道事務所
- (16) 東京湾環境情報センターのデータベースシステム
国土交通省関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所
- (17) 鶴ヶ島造成の地道な活動と伐採材の現場内100%リサイクルの達成
清水建設株式会社埼玉土木営業所鶴ヶ島造成作業所
- (18) 環境循環型下水道処理システム：汚泥再利用への取り組み
株式会社ヤマウラ、株式会社ロッシュ